



# 芝山小だより

4月号

清瀬市立芝山小学校

校長 佐藤 強

<http://www.kiyose.ed.jp/>

平成29年度のスタートにあたって

校長 佐藤 強

お子様のご入学・ご進級、おめでとうございます。新年度がスタートしました。今年度も、教職員・保護者・地域の皆様方とともに、伝統ある芝山小学校をより一層発展させるために、微力ながら努力してまいります。本校の教育活動につきまして、ご理解とご支援の程よろしくお願ひいたします。

今年度は、新1年生50名を迎え、全学年10学級、全校児童274名（4月1日現在）で新学期がスタートしました。私たち芝山小学校の教職員は、すべての子供たちの知・徳・体の調和のとれた成長を願ひ、学校の教育目標を下記のように定めています。

## 教育目標

○よく考え、やりぬく子 ○より明るく、みんなと仲良くできる子 ○そして強く、心身ともに健康な子

この中で、今年度も「よく考え、やりぬく子」の育成を重点に取り組みます。子供たちにとっては、「今日が楽しく、明日もまた学びたい」といえる学校であること、保護者・地域の皆様にとっては、「信頼の絆で結ばれ、活気と活力のある学校」であることを目指しています。

すでに、新学習指導要領が発表されました。本市においては、「清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画」の策定、学力向上戦略会議における「清瀬市学力観」が明示されています。ここでは、義務教育段階の児童・生徒に必要な資質・能力は、「論理的な思考力」、「基礎的・基本的な力」及び「社会と関わる力」を一体的に捉えた力（3力）とする、と示されています。この3力をさまざまな場面で活用することで実践的な力が身に付く、とされています。

本校では、子供たちの確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成するとともに、言語活動や体験活動を充実させることを基本方針として日々の教育活動を進めてまいります。

子供の学力向上は、保護者の皆様の願ひであり、私たち教職員の大きな責務です。生涯にわたる学習の基礎を培うために、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視した教育活動を行います。学力向上へ向けた取り組みとして、各学年の授業時数を増やすとともに、目標や流れ・見通しを明確にした授業づくりをさらに進め、授業改善に努めます。また、読書や俳句作り、対話活動を通して語彙力を高めるとともに、お互いの考えを交流して思考力の深化を図る授業に努めます。

なお、今年度から2カ年計画で、本市教育委員会研究指定校として、「清瀬の学力観」を踏まえた学力の定着・向上を目指した授業の在り方について研究・実践を行います。算数科を中心に「論理的な思考力」を育むためのさまざまな取り組みを行い、子供たちの学力向上の一助となるよう努めます。

豊かな心を育む取り組みとして、縦割り班のふれあい班活動や高齢者との交流給食、恵泉ホームの方々との主体的な交流活動を継続実施します。さらに、赤ちゃんのチカラプロジェクトや認知症サポーター養成講座、国立ハンセン病資料館を活用した教育活動を行います。差別や偏見のない良好な人間関係を築くことが、生命を大切に作る心の教育の第一歩です。自他の生命を尊重し、自尊感情を高くもつことができる子供を育てます。道徳教育においては、「考える道徳」「議論する道徳」を推進します。

校庭の芝生維持管理につきましては、昨年度もPTAや親父の会の皆様にご大変お世話になりました。子供たちは芝生の上で元気に遊んでいます。体育の授業でも有効に活用し、基礎体力・運動能力の向上を図っています。“芝小みどりの絆プロジェクト”として、今後ともよろしくお願ひいたします。

すばらしい出会いは人を育てます。子供にとって最大の教育環境は教職員であることを改めて自覚し、子供たちの成長を支援し見守り続けていきます。今年度も、何卒よろしくお願ひいたします。